

東三鷹学園



令和元年度 東三鷹学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	1. 東三鷹学園スタンダードの充実 2. サポート隊の充実、地域人財の活用 3. CS委員会の活動PRの推進	
取組	1. 東三鷹学園スタンダードの取組として、9年間の積み重ねが見えるファイルを導入し、さらに定着を図る。また、取組方法等について熟議を行い、活用方法の改善を図る。 2. サポート隊の活動をさらに推進するために、3校の事務局の連携を密にしていく。また、CS推進員を効果的に活用し、地域人財の活用を推進する。 3. 広報誌、HPをさらに活用し、発信していく。	
	成果	課題と改善方策
	1 小学校で東三鷹スタンダードのファイルを導入した。保護者会で内容や取り扱い方、取組内容についてより保護者の理解を深められるよう、2回CS委員から説明した。また熟議の中で活用方法や取組状況について共通理解を深めることができた。 2 小学校のサポート隊の活用は増加している。学園のサポート隊として活用できるよう、準備をスタートできた。3校それぞれの新しい取組に際し、CS推進員の方々を中心に、地域人財の協力を得ることができた。 3 CS委員会日より(1～3号)は広報部の努力もあり、内容の精選、充実が図られた。東三鷹学園日より(1～5号)は学園の取組を保護者・地域に向けて発信することができた。	1 導入1年目ということで、保護者、児童・生徒共に肯定的な評価が80%を下回っており、家庭での有用感がまだ低い。児童・生徒が自分の伸びを実感し、家庭にも効果的に活用してもらえるように学園だよりや学校だより、学年だより等で活用例や記入例などを紹介していく。 2 3校のサポート隊の募集システムの違いの解消や第六中学校での事務局立ち上げを行っていく。まずは2年間かけて、募集をかけるメールの統一を図っていく。第六中学校の発足とともに、学園のサポート隊として機能していけるようにする。 3 学園のHPがさらに有効活用できるようにしていく。学園HPの中にCSの活動内容の紹介を掲載して活動内容の周知をするとともに、CS推進員の方に更新していただけるようにする。

検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	1. 児童・生徒に身に付けさせたい力を明確にした東三鷹学園カリキュラム作成と学園研究での授業研究の充実 2. 相互乗り入れ授業の充実 3. 児童・生徒の交流活動の充実	
取組	1. 三鷹市小・中一貫カリキュラムに沿い、学園の実態に合った9年間カリキュラムを作成する。また、児童・生徒に身に付けさせたい力を明確にした小・中学校の教員の授業研究会を実施して、授業の質的向上を図る。 2. 小・中学校間の相互乗り入れ授業を推進する。(数学・算数、保健体育) 3-1. 小・小学校、小・中学校の交流活動を推進して、人間関係を深める。 3-2. TEH(学園生徒会・児童会)の活動を推進し、学園の自治意識を育む。	
	成果	課題と改善方策
	1 三鷹市小・中一貫カリキュラムを踏まえた東三鷹学園版カリキュラムを作成することができた。児童・生徒の実態から研究副主題を「思いを表現し、学びを深める子どもの育成」とし、全教科での授業研究を行うことができた。 2 相互乗り入れ授業はほぼ計画通りに実施することができた。中学校へは小学校6年生時にかかわった教員が行くことにより、数学科においてより一人ひとりの実態に合わせた指導ができた。 3-1 小・小および小・中の交流活動は滞りなく行うことができた。小・小の交流の積み重ねを自然教室での友好的な活動につなげることができた。ふれあい活動や運動会のボランティアなど。中学生が生き生きと活動することができた。 3-2 児童会、生徒会によるTEHの活動も計画的に行った。新たな交流活動を提案することができた。	1 今年度作成した東三鷹版カリキュラムを実践しながら検証および改善を行っていく。学園研究ではより児童・生徒の実態を明らかにし、個別最適化できる授業研究を行っていく。 2 授業変更や学校事情により、乗り入れ変更になることがあった。より指導効果を上げ、実態に合わせた活動にできるように、打ち合わせや授業内容の共有などを行っていく。 3-1 持続可能でさらに効果的な活動にしていけるように、内容の精選や実施方法の工夫・改善を行っていく。 3-2 TEHで企画、提案されたことを、学園全体の一体感、所属感、自治意識につなげていけるように、実践までのプロセスや起案ルートを明確にしていく。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	1. 基礎学力の向上 2. 教員の指導力の向上 3. 家庭学習の充実	
取組	1 確かな学力を一人ひとりに定着するために、個に応じた指導の徹底、ICT機器の積極的な活用、補充学習（みとか地域未来塾の活用）、学園としてのコンテスト（JMコン）等を実施する。 2-1. 学園研究会の研究の充実を図り、その成果を日常の授業での実践に繋げ、授業質的向上を図る。 2-2. 三鷹市小・中一貫カリキュラムや三鷹「学び」のスタンダードを活用し、授業の質的改善を図る。 2-3. 児童・生徒に2回の授業アンケートを実施し、教員の指導力向上に繋げる。 3. 家庭と協働して、家庭学習を推進する。	
	成果	課題と改善方策
	1. 授業や教室環境、学習規律の徹底を通して、児童・生徒にとって分かりやすい授業が進んでいる。基礎学力の定着をねらいとした、中学校でのJEM（国・英・数）と小学校でのJM（国・数）コンテストが継続的に実施できるようになった。 2-1. 学園内で取り組もうという姿勢は見られ、日々の授業への実践に繋がれるようになった。 2-2. 学園スタンダードの配布方法の改善により、保護者への意識を高めることができた。 2-3. 生徒による評価である「授業が分かりやすい」では、肯定的評価及び「学習したことが身についている」の項目は比較的高い評価を得ており、引き続き成果を得た。 3. 家庭との協働は進行中であるが、少しずつ定着化されてきている。	1. ICTの性能や数量の不足はあるが、活用方法の工夫をより進めていく必要がある。ICT活用の実践を公開し指導方法の共有化を進め改善を行う。基礎学力の定着をねらいとするモチベーションを高める課題提示の方法やコンテストの問題を見直し精査を行っていく。 2-1. 実践が成果となっている教員と、試行錯誤を繰り返す教員との差が生まれている。校内研修も活用し改善を図りたい。 2-2. 周知は進んだが、活用に関しては不足している。学校と家庭の共通のツールとしての位置づけを明確にし、相互の連携の中で具体的に活用していく。普段からの学習指導場面で、意識付けを行う。 2-3. 学力や努力が教員から認められているという有用感が高くない。自己有用感を高める言葉がけを中心に、フィードバックを積極的に行う。 3. 地域未来塾の発展と家庭への発信を進め、家庭学習の定着の推進を図る。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	1. 人権と言葉を大切にした指導の推進 2. 情報モラル教育の推進	
取組	1-1. いじめの根絶、体罰0を目指す指導を推進する。 1-2. 学園としてあいさつ運動を推進する。 1-3. 学園として規範意識の向上を目指す。 2. 地域・家庭・学校が協働して、情報モラル教育を推進する。	
	成果	課題と改善方策
	1-1. いじめアンケートやQU調査、生活のスタンダード、日々の指導を通して児童・生徒のいじめを発見・防止することができている。また、スクールカウンセラーの活用により、悩みや問題に適切に対応している。 1-2. あいさつ運動期間や日々の指導を通して、大多数の児童・生徒があいさつの積極的な実行を自覚している。 1-3. 生徒・児童の時間を守る、忘れ物をしない、きまりを守るなどの生活習慣が身につけている。また、相手に応じた言葉づかいをする意識を高くもっている。 2. 最新の携帯・スマホ・PCの現状を学び、情報リテラシーの向上に努めることができた。	1-1. いじめの早期発見・対応に関して、保護者の肯定的評価は8割を下回った。地域・家庭とより連携をし、指導の充実と取り組みに対する理解を進めていく。 1-2. あいさつに関して保護者の肯定的評価が7割に達していない。学校での取り組み成果の共有とともに、家庭でのあいさつのあり方にもより意識を持ち協力して行う必要がある。 1-3. 学園スタンダードとリンクさせた意識が低調である。生活と学力の相関性を高めるために、学園スタンダードを共通のツールとした積極的な活用をしていく。 2. テクノロジーの進歩が速く、対応が後手にまわっている。苦手意識を捨て、児童・生徒と同等以上のスキルを追求していく。

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	1. 体力の向上 2. 地域貢献する力を育む。	
取組	1. 9年間を見通した体力づくりを推進する。 2. 地域行事のボランティア活動等を通して、児童・生徒の心と体の健康づくりを推進する。	
	成果	課題と改善方策
	1. (1)相互乗り入れ授業では、中学校教員が小学校高学年の体育の授業で指導を行っている。専門的な技能の習得とともに、運動に親しみ体力の向上に繋がった。 (2)体力テストの結果から、学校の課題を集約し、健康教育委員会が中心となり、学園の課題を把握した。さらに、課題改善に向けての方策を検討し実践した。 2. 中学校では地域行事への参加やボランティア(地域行事・小学校行事)を行った。多くの人のために奉仕し感謝されること等で、自己有用感をもたせることができた。小学校では地域行事への参加を奨励し、地域の一員としての意識を高めている。	1. 9年間を見通した一貫した体力向上の取組をさらに充実させていく必要がある。体力調査の分析から各校の実践まで情報を共有し、より効果的な実践に繋げていく。 特に柔軟性や投げる力に課題があり、体育の授業や体育的な活動において、課題改善のための継続的な取組を学園として推進していく。また、相互乗り入れ授業を効果的に活用し、教師の指導力を高めるとともに、教員間の情報共有をさらに進める。 2. 児童・生徒の地域の一員としての意識を高め、ボランティアを通して自己有用感を高めることを、継続していくことが大切である。地域行事への参加、ボランティアの参加をさらに奨励して、地域の中で人間力・社会力を高めていく。

検証項目	6 特色ある教育活動	
目標	1. キャリア・アントレ教育を推進する。 2. 教員間、学校間の円滑な交流を推進する。	
取組	1. 各校の特色を生かしつつ、実態に応じたキャリア・アントレ教育を小・中学校で実施する。 2. 各委員会ごとに、学園のマニフェストの実現のために具体的な取組を進める。	
	成果	課題と改善方策
	1. 地域の特色を生かし、農業を切り口に3校の特色を生かしてキャリア・アントレプレナーシップ教育を推進した。農業体験や販売活動等を通して、地域の方や保護者と協働で活動の充実を図った。 2. 学園管理職会や学園運営委員会を定期的に開催し、マニフェストの実現のための方策を検討し、学園教員が全員集まる学園会議において、周知し全教員が共通認識をもてるように努めた。6委員会が具体的な実践ができるように、小・中一貫コーディネーターが進行管理にあたり、具体的な教育活動に繋がった。	1. 活動の充実とともに学習指導要領の趣旨である主体的で対話的な深い学びの実現できる学習になるように、9年間を見通した計画にする必要がある。そのために、各校の実践をさらに情報共有して活動を改善していく。 2. すべての教員がマニフェストを意識しているとは言い切れず、学園全教員が共通認識のもとでマニフェスト実現を推進していくことが課題である。そのために、学園会議や学園運営委員会、各委員会を機能的に活用し、各校・各教員の具体的な取組に繋げる。

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	1. 教職員のライフ・ワーク・バランスを推進する。	
取組	1. 校務改善や教職員の意識改革を図りながら、3校の実態に応じた働き方改革を推進する。	
	成果	課題と改善方策
	<p>1. 各校の主な校務改善の取組は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の効率化(職員夕会の回数減など) ・定時退勤日の設定 ・実際の勤務時間の1日30分減を目指す ・長期休業日や定期考査前の休暇取得の促進 ・出退勤システムでの一人ひとりの在校時間の把握 <p>様々な取組を通して、職員のライフ・ワーク・バランスを推進しようとする意識は高まってきている。</p>	<p>1. 各校での工夫した取組は実践され、少しではあるが在校時間は減っているが、まだまだ時間外の仕事が多い現状は続いている。3校と情報共有を図りながら、校務改善を推進するとともに、教職員のライフ・ワーク・バランス意識をさらに高めていく。</p>

令和元年度 東三鷹学園の評価・検証結果のまとめ

(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	<p>○学園合同研究会で授業研究を中心に進めながら、東三鷹学園版カリキュラムを作成することができた。児童・生徒の交流活動は滞りなく実施できたとともに、特に中学生が生き生きと活動することができた。TEHでは新たな活動を提案することができた。</p> <p>○いじめアンケートやQ-U調査の活用や日々の指導を通して、いじめの早期発見・防止ができています。あいさつ運動や日々の指導を通して多くの児童・生徒が挨拶の積極的な実行を自覚している。</p> <p>○中学校では地域行事への参加やボランティア(地域行事・小学校行事)を行った。多くの人のために奉仕し感謝されることで、自己有用感をもたせることができた。小学校では地域行事への参加を奨励し、地域の一員として意識を高めている。</p>
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	<p>○今年度作成した東三鷹版カリキュラムを検証および改善するとともに、児童・生徒の実態に応じた授業改善が課題である。</p> <p>○CS委員会と協働で、経年変化が分かるようにした「東三鷹学園スタンダード」の活用率を上げ、効果をより上げることが課題である。</p> <p>○サポート隊の活動をさらに充実するために、学園での協力体制の確立が課題である。</p> <p>○学園・CS委員会の活動の発信をさらに充実していくことが課題である。</p>
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策
	<p>○学園合同研究会において、児童生徒に確かな力をつけるための授業改善を推進するとともに、令和元年度に作成した東三鷹版カリキュラムの検証し、義務教育9年間の系統的な指導を目指す。</p> <p>○学園スタンダードの取組をCS委員会と教員が協働で実践していく。経年変化が見とれるよさを把握し発信していく。</p> <p>○保護者のサポートや地域人財を活用できるように、学園全体でサポート隊が機能するシステムの構築を進める。同時に中学校でもサポート隊が活動できるようにする。</p> <p>○「CSだより」の発行とともに学園HPの充実を図る。</p>